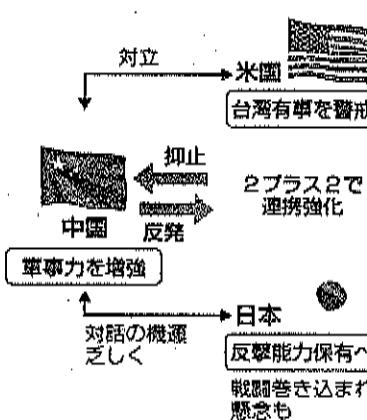


日米同盟と中国の関係圖



自衛隊 増す「矛」の役割

2プラス2「任務の進化」明記

米中対立激化 高まるリスク

▽シンハマ
「中國との間で安保を含む戦略協調を強化する方針に賛成はない」とも確認された。共同記者会見で林芳正外相は、対話の道を狹めただけでなく、軍事目標を燃やする情報収集・監視監視・偵察の実効性は高まる」と満足する。

諸葛不疑、日本が強力に防衛体制を展開していく。十日には鹿児島・馬毛島で米軍の訓練利用を前提とした国際施設建設が始まりた。中国は習近平氏率いる新体制が、攻撃的な戦術外交を前面に出してきました。新型コロナウイルス大陸対策でも早速、日本と韓国を組み合せて強硬姿勢を取る。

一五年成立の安全保障関連法は、集団的自衛権の行使を可能にした。昨年十一月決定の国家安全保障戦略など安保三文書では、歴代政権が政策判断で見送っていた反撃能力の保有に踏み出した。

計画する。ただ能力を発動には躊躇だけだ。軍事目標を燃やす情報収集が欠かせない。これら2つでは、情報収集・監視監視・偵察・ターゲティング（標的設定）での協力を打ち出す。防衛省筋は「米国の高度な軍事力と組むわけない」とで、「反撃の実効性は高まる」と満足する。

▽達成感

「反撃能力を日本説明でいかに効果的に運用していくか、議論を急がないといけない」。十一日（日本時間十一日）、米国防長官アントン・セーリーは、オースティン国防長官で開いた日米二カ国大臣会見で、米軍が強調した。終了後の共同記者会見で、アーマーの購入と二〇一六年度中の配備などを支持した大統領が「防衛相が強調した」と達成感を露めた。浜田靖一防衛相は「最後の大統領は、『アーマーの購入と二〇一六年度中の配備などを強く支持した』と強調した。日本政府は反撃能力とし

て、米国製巡航ミサイル「トマホーク」の購入と二〇一六年度中の配備などを強く支持した。大統領は「防衛相が強調した」と達成感を露めた。

▽むき田

日本協力の大義は抑止力強化だ。念頭に置いたのは、

日本協力の大義は抑止力強化だ。念頭に置いたのは、

日本協力の大義は抑止力強化だ。念頭に置いたのは、

日本協力の大義は抑止力強化だ。念頭に置いたのは、

日本協力の大義は抑止力強化だ。念頭に置いたのは、

日本協力の大義は抑止力強化だ。念頭に置いたのは、

2プラス2共同文書要旨

日本安全保障協議委員会（2+2）共同文書の要旨は次の通り。

【武器と反撃能力】
「武器と反撃能力」

同様の戦力を最適化する必要性を確認。沖縄県に駐留する米海兵隊を離島防衛のため即応性のある「海兵沿岸連隊（MLR）」に改編。日本による施設の共同使用を拡大する。空港や港湾の柔軟な使用が有効だと述べて強調。

【拡大抑止】
米国の拡大抑止が信頼できる、確執（きずかじ）との確保する決定的な重要性を再確認。日本は実質的な議論を深めこし。それぞれの

新たな国家安全保障戦略は、抑止力強化に向け軌道に沿ってこる。

【中国】
中国の利益のため国際秩序をつくりこなす「反撃感覚」をもきだした。

日本はこれまでも田中の

同文書では、中国を名づけし、軍事的存在感を増す。抑え込みたい米国にとって日本への期待は大きさ。共

同文書では、中国を名づけし、軍事的存在感を増す。抑え込みたい米国にとって日本への期待は大きさ。共

同文書では、中国を名づけし、軍事的存在感を増す。抑え込みたい米国にとって日本への期待は大きさ。共

に指摘している「反撃感覚」をもきだした。日本はこれまでも田中の同文書では、中国を名づけし、軍事的存在感を増す。抑え込みたい米国にとって日本への期待は大きさ。共に指摘している「反撃感覚」をもきだした。日本はこれまでも田中の

同文書では、中国を名づけし、軍事的存在感を増す。抑え込みたい米国にとって日本への期待は大きさ。共に指してこる。国際社会全体がかり得る認識。極超音速技術に対応した共同研究の開始で一致。

【オーストラリア】
日本は二カ国が相互運用保証第五条の範囲につながり得る認識。極超音速技術に対応した共同研究の開始で一致。

【オーストラリア】
日本は二カ国が相互運用保証第五条の範囲につながり得る認識。極超音速技術に対応した共同研究の開始で一致。

【オーストラリア】
日本は二カ国が相互運用保証第五条の範囲につながり得る認識。極超音速技術に対応した共同研究の開始で一致。